

地域への宣伝、メディア（新聞・地元FM）などを使って

生徒のアイデア、自主的・主体的な取り組みで

報告者

神奈川県逗子開成中学校・高等学校 生徒会顧問 村山 哲也先生

POINT

生徒会の役員・執行部、文化祭の実行委員会、有志によるチャリティー祭実行委員会などが中心となって、学校創立100周年を記念して、年間を通しての募金活動に取り組みました。

活動の経過

- 2002年12月 100周年創立記念行事に向けての活動計画を検討、募金活動に取り組むことを決定。
- 2003年 1月 生徒の実行委員会で学習会に取り組む（レポーターは生徒、テキストは「世界子供白書」）
- 2月 ユニセフハウスを見学、スタッフからレクチャーを受ける
- 2月 第1回街頭募金（18名）
- 3月 第2回街頭募金（13名）、第3回街頭募金（11名）
- 4月 第4回街頭募金（14名）、第5回街頭募金（18名）、第6回街頭募金（20名）
校内募金、文化祭での募金集めの取り組み、古本市その他の取り組み
- 5月 生徒会役員選挙、新生徒会執行部発足
- 6月 生徒総会及び高2有志等の話し合いで「チャリティー祭」の計画立案
- 8月 生徒会役員が日本ユニセフ協会のセミナーに参加、学習
- 10月 チャリティー祭実行委員募集、約50名が応募、実行委員会発足
「湘南ネットワーク」の合同ボランティア（街頭募金）の計画決定、準備
- 11月 チャリティー祭準備（バザーの献品集め、宣伝、その他準備）
- 12月 チャリティー祭実施（バザー、チャリティーコンサート）
「湘南ネットワーク」の合同ボランティア（10箇所での同時街頭募金、参加生徒5校63名）



12月の湘南ネットワーク合同ボランティア。JR横須賀線・逗子駅前



2月の募金。JR横須賀線・逗子駅前

取り組みのポイント

- ・生徒のアイデア、自主的・主体的な取り組みを大事にした。生徒自身が活動そのものを楽しめるように、生徒自身による様々な工夫を尊重した。
- ・節目で「学習」をきちんと位置づけ、生徒が主体となって取り組んだ。また、学んだ内容を他の生徒に還元する機会も必ず持つようにした。
- ・生徒会新聞や校内ポスターなどを通して、取り組みの経過を常に全校生徒に伝えた。
- ・募金活動に取り組むことで集められたのはお金だけではない。人々から「善意」を受け取ることで生徒はエネルギーをもらい、次の活動を生み出す原動力となっていく。また、集まったこのお金がどの位役に立ったかという疑問が、新たな学びや次の活動につながる。
- ・地域への宣伝、メディア（新聞・地元FM）を使った宣伝などに意識的に取り組んだ。
- ・地域との交流（障害者福祉作業所に参加してもらった、バザーの献品を地域にも呼びかけた）や、父母への協力呼びかけ、他校との交流などとリンクさせながら取り組んだ。

*「湘南ネットワーク」とは、横浜南部・三浦半島地域の私立学校の生徒会どうして情報交換や交流をはかるために結成したネットワーク組織です。2002年3月に発足、生徒会役員レベルでの情報交換をはかりつつ、交流行事なども実現している。